大阪大学運営方針会議（令和７年度 第５回）議事要旨

日　時　令和 8 年 3 月 18 日（水）9 時 59 分～11 時 26 分

場　所　オンライン会議

出席者　井野瀬委員（議長）
　　熊ノ郷総長
　　ビール、大石、津賀、永井、安浦、藤尾、田中　各委員
（陪席者）尾﨑、井上　各理事

議事に先立ち、井野瀬議長から、前回（令和 7 年 11 月 20 日開催）の議事要旨について、事前に各構成員に照会し、内容を確定した旨報告があった。

議　　事

1　大阪大学成長戦略について

熊ノ郷総長及び藤尾委員から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からは、前回会議の議題でもあった国際卓越研究大学の審査状況、不採択という結果と合わせて、積極的な発言が相次いだ。主な意見は次のとおり。

○　国の関心は、純粋な医学研究だけでなく、むしろ「病院経営」のような周辺分野に強く向けられている。大阪大学がこの「病院経営」の分野で圧倒的な強みを発揮できれば、他大学との差別化ができる１つの大きな要素になる。

○　今回の審査は、目先の評価対策で終わらせるのではなく、こうした分野で国内トップを目指す、改革を加速化させるなど、大学の戦略を抜本的に見直す好機として捉えるべきである。

○　国際卓越研究大学の審査では、大学病院の課題は主流から外れるが、ここが弱みにも強みにもなり得る（議題４に関連意見あり）。

2　令和８年４月からの運営組織構成員等について

（１）役員等の任命について

（２）副学長及び総長参与の指名について

熊ノ郷総長から、配付資料に基づき報告があった。

3　令和８年度当初予算（案）について

熊ノ郷総長及び尾﨑理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを決議した。

4　前回のご意見等に対する取組状況について

11 月の運営方針会議の時に出された委員意見への対応として、熊ノ郷総長から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○　より効率的な運営プロセス、組織体制、KPI 管理などを導入することで、パラメーターとしての病院の稼働率を見直し、さらなる向上も可能となるのではないか。
○　病院経営において、計画と実績を比較管理する「予実管理」が重要である。大学病院が自ら、特に「手術枠の稼働」と「新規入院患者の確保」という２点について、予実管理を徹底していくことが不可欠である。
○　大学病院において、診療に必要な医薬品等の購入時に負担した消費税が、診療報酬で十分には補填されていないのではないか。大阪大学においてもその規模やメカニズムを把握するように努め、国と対話していくことが求められる。
○　大阪大学が力を入れている電子カルテシステムを、情報システム関連の研究開発だけでなく経営を改善するための DX として活用することは、国内の他大学がまだ着手できていない先進的な取り組みである。これを体系的に実践すれば、阪大独自の強みとなり、強力なアピールポイントになる。

【その他】

３月３０日限りで退任となる井上理事から、退任に係る挨拶があった。

（以　上）